

53. 井戸がき・境川の越場

低湿地の摂津市域でも、干ばつは被害をもたらした。前項と同じく I 氏のメモから太中の干ばつ対策を、後半は水利に詳しい Y 氏の話から境川のコシバをまとめた。

野井戸で灌漑

太中も上田（かみた）は溜池に頼っているが、干ばつが続くと池の水は 2～3 回しか出ない。そこで井戸ガキといって野井戸の水を汲み上げた。竿竹の先にツルベを付け、水を汲む役と竿を引き上げる役と普通 3 人でやった。3a（3 畝）くらいの田なら手頃だが大きな田は不可能に近い（太中）。A は寄贈品のツルベで、口径 31cm、高さ 35cm。

B C は「摂津国各郡農具略図」の明治時代のはねつるべ、繰りつるべ。

水車を踏む

下田の方は安威川の鶴野の戸関（とせき）が閉鎖されて上流に水を上げる。これにも限度があるので 2～3 ヶ所に 2 人踏みの水車を構えて 20 分交代で踏んだ。

大正の中頃から隅の樋前だけ発動機を使うようになった（太中）。

収穫 7 割減に

大正 10 年（1921）は、6 月末のサナブリからすでに干ばつで、水入れにかかったが、9 月 14 日まで雨らしい雨は降らず、上田は焼け 2 反で 3 俵ぐらい、下田でさえ高みで水の行かなかった所は収穫はゼロで、平均収穫高は 3 割程度にしかならなかった（太中）。

村の負担の不公平を均す

村では、家族構成その他の事情で起こる負担の不公平を均す努力が行われていた。

太中では昭和 32 年（1957）太中部落会誕生、昭和 38 年（1963）には太中町会と改称した。その町会ができるまでの部落費、川浚え賃、水防人夫賃等は、毎年 2 月と 8 月に総代宅で勘定し、人夫賃は 1 人玄米 2 升の割りで計算し、2 月末に支払った。勘定は伍長（組親・組頭）衆によって行われ、反別割りと家の等級割りで計算した。

1 等級（1 人 8 分）、2 等級（1 人 6 分）、3 等級（1 人 4 分）、4 等級（1 人 2 分）、5 等級（1 人前）、6 等級（0.8 人）、7 等級（0.5 人）。

境川のコシバ（越場）

千里丘東の境川の堤防には、かつてコシバ（越場）といって西側に低い箇所があって、増水すれば溢れ出て坪井井路・味舌井路に落ちるようになっていた。これは東側が天領だったからという。大阪府が改修したとき形だけ残したが以前より高かったのも、川を挟んで両側の村が険悪な空気になった。公共下水道の完成で、今はもう水は流れていない。

A black and white photograph of a wooden bucket. The bucket is made of vertical wooden staves held together by horizontal bands. It has a single handle made of a curved wooden piece with a circular hole in the center. The bucket appears to be made of light-colored wood and shows some signs of wear and age.

蠶

島下郡

B

竹竿九三間半

竿取乎天之極
代價之世矣

卷中書人
有書
卷中書人
代筆三書

長江問世

陳其南

クリ
罎瓶

代宣
三書

豐島郡

C

口、輕り全尺を寄る

八寸五分

2. $10 \leq 15$